

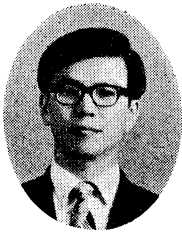
昭和 47 年度論文賞の決定

昭和 47 年度情報処理学会論文賞は、同賞選定委員会（穂坂委員長ほか 12 名）において慎重審議の結果、以下の 3 編が最終候補として推せんされ、第 153 回理事会（48 年 3 月）の承認を得て決定されました。

なお、以下の 3 編に対する、本会表彰規程による賞状と賞金との授与は、去る 5 月 17 日に開催の第 11 回情報処理学会通常総会の席上で、清野会長の手によりとり行なわれました（巻末本会記事参照）。

記

○「ページング・マシンにおけるスワッピング・アルゴリズムの比較とプログラムの動作解析」(Vol. 13, No. 2, pp. 81~88)



益田 隆司（正会員）

昭和 14 年生。昭和 38 年東京大学工学部応用物理学科卒業、40 年同修士課程修了。同年より（株）日立製作所にて、HITAC 5020 TSS の研究開発、計算機システムの性能評価の研究に従事、現在同社システム開発研究所に勤務している。その間、昭和 45 年より 1 年間、米国カーネギ・メロン大学に留学した。



高橋 延匡（正会員）

昭和 8 年生。昭和 32 年早稲田大学理工学部数学科卒業。同年より（株）日立製作所にて、HIPAC 103 用 FORTRAN コンパイラの開発、HITAC 5020 モニタの開発、5020 TSS の研究開発、計算機システムのシステム評価、OS の原理などの研究に従事、現在同社中央研究所に勤務している。



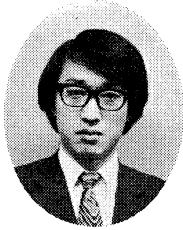
吉澤 康文

昭和 19 年生。昭和 42 年東京工業大学理工学部応用物理学科卒業。同年より（株）日立製作所にて、HITAC 5020 TSS の研究開発、計算機システムの性能評価の研究、オンライン・システムの方式と応用の研究に従事、現在同社システム開発研究所に勤務している。

〔概要〕 本論文は、バーチャル・メモリ方式を有する計算機システムの性能評価について述べている。実システムのもとで動作する種々のプログラムの実行時の命令単位のアドレス軌跡情報を利用して、バーチャル・メモリ・システムの性能に特に大きな影響を与える主メモリと 2 次メモリ間のスワッピング・アルゴリズムの比較検討、およびページング機構のもとにおけるプログラムの動作解析を行なっている。

本論文は、今後のバーチャル・メモリ方式による計算機システムの方式設計に対して、実用性のある有効な指針を提供しているものと考えられる。

○「コンフリクト・フラグをもったハッシュ記憶法」(Vol. 13, No. 8, pp. 533~539)



古川 康一 (正会員)

昭和 17 年生. 昭和 40 年東京大学工学部計数工学科卒業, 42 年同修士課程修了. 同年より通産省工業技術院電子技術総合研究所にて, TSS, データ構造, コンピュータ・グラフィックスの研究に従事, 現在プログラムの自動作成に興味をもち, 研究を行なっている.

〔概要〕 本論文は, ファイル・システムを作るときの有力な方法であるハッシュ記憶法に関し, コンフリクト・フラグを用いたときの項目の登録, 検索および削除のアルゴリズムを与えている. また, そのアルゴリズムを用いたときの項目の平均棄却時間を解析的に求め, 他の方法との効率の差を明らかにしている.

本論文で示された方法は, 指定された要素が, ある有限集合に属しているかどうかを判定する場面に対して有効であり, マクロ・アセンブラの命令表, ハッシュ表のあふれの処理など多くの問題に応用することができよう.

○「連続・離散系両用シミュレーション・プログラムの開発」(Vol. 13, No. 9, pp. 599~605)



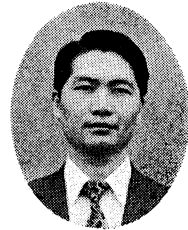
赤塚 武昭 (正会員)

昭和 9 年生. 昭和 33 年東京大学工学部応用物理学科卒業. 同年より東レ(株)にて, コンピュータを中心とする計測技術の開発に従事, 現在同社エンジニアリング研究所主任研究員. その間, 昭和 43 年より 2 年間, 米国ケースウェスタン・リザーブ大学に留学, M.S..



吉田 信之

昭和 18 年生. 昭和 43 年東京工業大学理工学部制御工学科卒業. 同年より東レ(株)にて, 計測技術開発, 計算機ソフトウェアの開発, 特にプラント・シミュレーション, プロセス制御に伴うハードウェア, ソフトウェアの研究開発に従事, 現在同社エンジニアリング研究所研究員.



加藤 明憲 (正会員)

昭和 15 年生. 昭和 37 年東京工業大学理工学部物理学科卒業. 同年より東レ(株)にてコンピュータの応用研究, 特にシミュレーション関係の研究と, プロセス・コンピュータのソフトウェアの開発に従事, 現在同社エンジニアリング研究所研究員.

〔概要〕 大規模なシステムの計画, 設計において, 計算機の発達とともにシミュレーションは非常に重要な技術となってきた. これに対してシミュレーション・プログラムは, それぞれ連続系, 離散系専用のものが広く使用されてきた.

本論文は, 連続・離散系を含む実際のシステムを容易に表現でき, かつシミュレーション可能な新しいタイプのプログラムについて, 基本的な考え方, システム要素について述べ, 計算例を示している. この他に多くの適用例もあり実用性の高いユニークなプログラムである. 今後の応用面での成果が期待できるとであろう.